

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- 学ぶことの楽しさを感じる「分かる」「楽しい」授業の推進・充実

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長:高瀬 淳	教頭:大知 大
5学年推進員 中内 悠久哉		6学年推進員:湯口 皓平	4学年推進員:久米 真理
		3学年推進員:村井美早紀	2学年推進員:一宮 紫苑
		1学年推進員:多富 美智	

校長

高瀬 淳 印

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ドリル学習や音読練習に取り組む習慣が身に付き、基礎的・基本的な知識・技能が定着している児童は多い。 ●学力に二極化傾向がみられ、各学年に学力の低い児童が数名いる。一人一人の学力に応じた支援に課題がある。	・学習課題に確実に取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を習得し、活用することができる。 ・情報を効果的に活用することができる。	・板書を工夫し、問題解決の流れにそったノートがとれるような指導を行う。 ・パワーアップタイムの実践内容を学年間で共有し、活用する。 ・ICT 支援員と連携しながら、タブレット端末を目的に応じて取り入れ、一人一人が活用できるようにする。	パワーアップタイムの実践内容について学年で話し合う機会を設け、有効に活用していく。	・板書を工夫し、ノート指導を行うことができた。 ・パワーアップタイムの内容を学年間で共有して実践することが十分できなかった。 ・ICT 支援員と連携してタブレット端末を活用することができたが、教科によって差があった。	・パワーアップタイムの内容について共有する時間を設ける。 ・各教科でのタブレット端末の効果的な活用方法について研修を積み重ね、実践していく。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを進んで発表したり、友達の意見を関心をもって聞いたりすることができる児童は多い。 ●相手の意図を捉えながら聞いたり、自分の考えの根拠を明確にして話したりすることはあまりできていない。	・話し手の言いたいことを考えながら聞き、目的や相手に応じて根拠を示しながら、自分の考えを適切に表現することができる。 ・友達と意見を交換することを通して、自分の考えを広げ、深めることができる。	・書く活動を積極的に取り入れ、根拠を明確にしながらか自分の考えをまとめる機会を設ける。 ・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する。 ・ホワイトボードや ICT を活用して、児童が互いに考えを交流できるように工夫する。	課題を解決するために必要な情報や自分の考えをまとめ、互いに交流する活動を通して、思考を深めさせる。その手立てとして、ホワイトボードや ICT 等を活用していく。	・書く活動を積極的に取り入れることで、自分の考えをまとめる機会を増やすことができた。 ・ペア学習やグループ学習を取り入れることで、自分の考えを表現できる児童が増えた。 ・児童が互いに考えを交流する手段としての ICT の活用があまりできなかった。	・ペア学習やグループ学習を通して、思考を深めるための工夫(言葉かけ、問いの設定など)をしていく。 ・学級によって ICT の活用に差があった。校内研修などの場で活用方法を共有し、安心して実践できるようにしていく。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習課題に対してまじめに取り組むことができる。読書が好きな児童が多い。 ●与えられた課題には取り組むが、自ら課題を見つけて取り組もうとする児童は少ない。また、学習に必要なものがそろっていないかったり、宿題を忘れてきたりするなど、学習習慣が定着していない児童がいる。	・望ましい学習習慣が身に付いている。 ・進んで学習に取り組む、学ぶ楽しさやわかる・できる喜びを感じることができる。	・「学習習慣チェックシート」を活用し、望ましい学習習慣の定着を図る。 ・児童が主体的に取り組めるような体験や活動を取り入れる。 ・学習をふりかえる時間を設け、解決した達成感と次への課題意識をもたせるようにする。 ・「家庭学習の手引き」を基に、自主学習の仕方を指導する。 ・読書タイムの確保に努め、定期的な学級文庫の入れ替えなど、読書環境を整えていく。	「家庭学習の手引き」を活用して、自主学習の仕方を指導していく。	・「学習習慣チェックシート」を毎学期実施したが、継続することが難しかった。 ・児童が主体的に取り組めるような体験や活動を積極的に取り入れることができた。 ・学習をふりかえる時間を設け、児童の学習状況を把握し、授業改善につなげることができた。 ・「家庭学習の手引き」を配布した後、あまり活用することができなかった。 ・学級文庫の入れ替えなどを行って、読書環境を整えることができた。	・「学習習慣チェックシート」を継続して実施し、自分自身の成長を実感できるように支援していく。 ・自主学習の仕方を指導するために、「家庭学習の手引き」を定期的に活用していく。 ・定期的に学級文庫の入れ替えを行い、読書の推進に努める。

令和4年度 学力向上ロードマップ

